

## アートマイルプロジェクト評価シート

■基本情報について教えてください。

学校名 [北海道浦河町立堺町小学校] 担当教諭 [熊谷 真 (担任) ・中島主税 (コーディネータ)]			
児童生徒の学年・クラス・参加人数: [ 6年 1組 32名] [ 年 組 名]			
実施期間: 2010年 8月 ~2011年3月			
交流: 無・有 国名[インドネシア] 学校名[SDN kaliasin] 学年[5] 担当教諭[ Mrs Tori ]			
実施教科・時数	教科	単元名	時数
アートマイルに関連した時間すべて (総合は外国語活動、環境など中身がわかるよう)。必要に応じて行を追加してください。	総合	アートマイル (外国語8・国際交流12)	20
	図工	壁画づくり	6

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	環境・平和・交流
絵に込めたメッセージ	世界への平和、インドネシアと日本との友好、調和 (ハーモニー)

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
導入	8月	DVD自己紹介	英語で自己紹介のため、緊張しながらのビデオ撮影	総合
情報収集	5月	修学旅行とセット、でテレビ会議で発表するための情報収集。	修学旅行の事前学習と併せて情報収集。修学旅行とその後の発表が明確だったせいか、非常に意欲的に取り組む。	総合
テーマ検討	8月	DVDの自己紹介後に即実行。その後控えるテレビ会議のために絵の下書きの作成。テーマはインドネシアと日本との交流で大切な事と、アートマイルの本年度のテーマを伝えて作成。	下描きの作成よりも、これをどのように伝えるかが問題となった。実際に交流がテレビ会議 (自己紹介) がスタートしていたので、切実感のある意欲的に取り組む活動となった。	図工
制作	9月	下絵を紹介した上で、どの絵が良いかをインドネシア側に選んでもらった上で、作成。テレビ会議での相手の反応とセットというのがポイント。	全員で絵を作成を出来ないため、実行委員をつくり作成。意欲的に取り組むことができた。	放課後
鑑賞	3月	インドネシア側の絵の作成が、学期末ぎりぎりだったため、テレビ会議で絵の完成を見ることができた。実物が来たのは、卒業式後だったため、中学校の先生に頼んで、中学校に掲示をした。	感想の中で、テレビで実際に絵の完成を見て、うれしく感じた、実際につながっていたんだという感想がみられた。	総合

■学習目標と成果はどうでしょうか? (「重視」には指導にあたって重視したものを1位~5位まで記入を、「先生の手応え」はすべてについて以下の1~5で評価してください。)

(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:まったく関連)

がなかった)

つきたい力・指導目標	重視	先生の手応え	そう感じた場面・理由
コミュニケーション・スキル	1	5・4・3・2・1	インドネシアとの交流を重ねるにつれて、相手側に親近感を感じ始めた場面。
情報活用能力（収集・発信）		5・4・3・2・1	プレゼンをし合う中で、相手に伝わるような交流を自分達で出来るようになってきた。
人間関係をつくる（交流相手・学級内）	2	5・4・3・2・1	小グループで活動するうちに、グループ同士の仲もよくなってきた。助け合い声をかけながら活動できていた。
協同作業をする力（役割・段取り）	5	5・4・3・2・1	グループの中で協力し合い、問題をもつ子も自分の役割を見つけて協力することができた。
異文化の理解	3	5・4・3・2・1	インドネシアの子に対し、学校の違い等よりも、同じ人間としてつながることができるかと理解していたと感想等から分かった。
自文化の理解・自分を見つめる		5・4・3・2・1	自分の国を紹介するために、自分の国の地域について、発表する中で自分の国、地域について見直すことが出来た。
表現力	4	5・4・3・2・1	テレビ会議で交流し合ううちに、相手の発表への反応など、発表者だけでなく見ている子ども達も相手に伝わるような表現ができるようになってきていた。
学習を追究する意欲		5・4・3・2・1	毎週のようにあるテレビ会議にむけて、意欲的にとりくむことができた。
作品を鑑賞する力		5・4・3・2・1	今回は、作品をみるのもテレビ会議の時だけであり、卒業式後に作品がとどいたこともあり、鑑賞する時間を十分にはとれなかった。ただ、インドネシアの人が一生懸命やってくれたという事は、よく理解していたし、自分達のやったこと、相手側のしてくれたことについて深い満足が感想等から読み取れた。

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成果	課題
日本人、インドネシア人という境をこえて、ともに学べるという実感、親近感こそが成果だったと思います。このように親近感をもって、共につながり学ぶことができるということが、世界平和にもつながる成果だったとおもいます。	アートマイルの学習は、教師の意欲が一番重要。また、次に校内の承認が必要とされると実感しました。校内の多くの先生にたすけていただきながら、この学習を進めることができました。 国をこえて先生同士が仲良くなる努力、しつこくつながろうとする努力、こういう事が毎年の課題になっていくだと思います。（今年は、初年度でしたが、達成できたように思います）言葉が通じるとか、通じないとかではなく、熱意こそがいちばんの課題となると思います。

■アートマイルに対する校内・保護者や地域の方の反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報の機会	校内・保護者や地域の方からの反響
<p>学校便り、日高報知（北海道日高の新聞）、北海道新聞でもとりあげていただきました。</p>	<p>多く反響がありました。  地域の人にも注目され、保護者からも「すばらしい学習をやっているね」と言われるなど、教師の側にも、子ども達にも自分達に自信をもてた学習になりました。</p>

■その他ご感想・アートマイルプロジェクトへの要望などありましたらどうぞ。

今回は、塩飽夫妻に本当にお世話になったと感じています。  
他、私達の知らないところで多くのスタッフに助けられた活動だと思っています。  
そのおかげで、インドネシアの人と無事つながることができ、また非常に価値ある体験的学びを子ども達と教師と共有することが出来たと思っています。